国語科

一学期中間テスト

注意事項

１　｢始め｣の合図があるまで、開いてはいけません。

２　解答用紙に組、番号、名前を書きなさい。

３　解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。

―――――――――――――――――――――――――――――――

　　　　　　　組　　　　　番　　名前：

―――――――――――――――――――――――――――――――

１　握手　２

次の問いに答えなさい。

「握手」

Ｐ23Ｌ⑬～Ｐ24Ｌ⑲　のテキストを入れてください。

⑴　23⑬「いっとう悲しい」とありますが、ルロイ修道士が「いっとう悲しい」のはどんなときですか。（　）に入る言葉を、（　Ａ　）は四字、（　Ｂ　）は七字で抜き出しなさい。思判表

天使園で育った子が、（　Ａ　）を（　Ｂ　）ためにやって来る姿を見るとき。

⑵　⑴のことから、ルロイ修道士のどのような気持ちがわかりますか。次から選びなさい。思判表

ア　天使園で育った子供たちがお互いに助け合い、友情を忘れないでいてほしいと願う気持ち。

イ　天使園で育った子供たちが早く一人前になり、天使園の子供たちへの援助を願う気持ち。

ウ　天使園で育った子供たちが立派になり、天使園が不要な世の中になってほしいと願う気持ち。

エ　天使園で育った子供たちの成長を見守り、卒園しても子供たちの幸せを願う気持ち。

⑶　23⑱「ない」、24④「あり」の品詞名をそれぞれ書きなさい。

⑷　24①「右の人さし指に中指をからめて掲げた」とありますが、ルロイ修道士はなぜこの指言葉を「わたし」に示したのですか。（　）に入る言葉を、（　Ａ　）は四字、（　Ｂ　）は五字で抜き出しなさい。思判表

もう会うことのない「わたし」に（　Ａ　）やってほしいという励ましと、（　Ｂ　）というメッセージを送りたかったから。

⑸　24③「　　」に入る言葉を、次から選びなさい。思判表

ア　ふざけてきいた　　　イ　問いつめるようにきいた

ウ　思い切ってきいた　　エ　遠回しにきいた

⑹　24⑤「少し赤くなって頭をかいた」ときのルロイ修道士の気持ちをまとめた次の（　）に入る言葉を、二十字以内で書きなさい。思判表

（　　）ことを見破られてしまい、とまどっている。

⑺　24⑮「顔をしかめてみせた」ときのルロイ修道士の気持ちを、「教え子」「照れくさい」「うれしい」を使って、三十字以内で書きなさい。思判表

⑻　本文から読み取れるルロイ修道士の人物像を、次から選びなさい。思判表

ア　にぎやかなことが好きな、楽天的な人物。

イ　神様だけを信じる、信仰心のあつい人物。

ウ　愛情深く、死をも恐れない、前向きな人物。

エ　現実を直視できない、さみしがりな人物。

２　学びて時に之を習ふ　２

次の問いに答えなさい。

「学びて時に之を習ふ」

Ｐ38Ｌ⑨～Ｐ39Ｌ⑥、Ｐ39Ｌ⑪～Ｐ40Ｌ⑥　のテキストを入れてください。

⑴　38⑨「学びて時に之を習ふ」について、①「学ぶ」と、②「習ふ」にはどのような意味の違いがありますか。それぞれの意味を選びなさい。

①「学ぶ」ア　教えを受けて教養を身につけること。

イ　自分の無知を自覚すること。

ウ　知らないとは言わないようにすること。

②「習ふ」ア　予習をして理解を深めること。

イ　復習をして理解を深めること。

ウ　復習をして新たな疑問を発見すること。

⑵　38⑨「亦説ばしからずや」とはどんな意味ですか。十五字以内で書きなさい。思判表

⑶　39③「人　不　知　而　不　慍」を書き下し文に直しなさい。

⑷　38⑪「亦君子ならずや」とありますが、孔子はどのような人物を「君子」だと言っていますか。（　　）に入る言葉を二十字以内で書きなさい。思判表

世の中の人々が（　　）、徳の高い理想的な人格をもった人物。

⑸　39⑪「学びて思はざれば」、どうなると孔子は言っていますか。十字程度で書きなさい。思判表

⑹　39⑪「学びて……則ち殆し。」という言葉で孔子はどんなことを言おうとしているのですか。（　）に入る言葉を、（　Ａ　）は二字、（　Ｂ　）は三字で書きなさい。思判表

（　Ａ　）ことも（　Ｂ　）こともどちらも必要だ。

⑺　40①～②「之を知る……楽しむ者に如かず。」という言葉で、孔子はどんなことを言おうとしているのですか。「及ばない」という言葉を使って三十字以内で書きなさい。思判表

３　握手　漢字

次の《　》を送りがなをふくめて漢字に直しなさい。

⑴ 《センタク》ものを干す。

⑵ 《おだやか》に暮らす。

⑶ 足の《つめ》を切る。

⑷ 野球部の《カントク》。

⑸ 雷の音が《こわい》。

４　学びて時に之を習ふ　漢字

次の《　》を送りがなをふくめて漢字に直しなさい。

⑴ 《するどい》指摘を受ける。

⑵ 指先に《ふれる》。

⑶ 《シサク》にふける。

⑷ 錯覚に《おちいる》。

⑸ 仲間を《はげます》。